

かもしれない」との情報がいった。そのため、非常用発電機を、一部暖房設備に切り換えたが、電気供給量は十分でなく、早急に自家用発電機の確保にとめた。27日夜間、まったく電気が供給されない病棟もあり、ポータブルストーブとLEDランタンを用意し、なんとか寒さと暗さを凌いだ。また、電気が供給されている病棟でも、暖房は確保されたが、非常用照明（豆電球）のみで、病室、廊下は点灯するが、トイレは真っ暗で転倒の危険性があった。外線電話回線は、電話交換機のバッテリーが消失したため28日夕方まで、医師使用の院内PHSは、中継局がダウンし使用不能となったため30日まで不通になった。しかしながら、個人用携帯電話が利用できたため、情報入手や物資等の応援依頼は可能で助かった。また一方で、テレビ映像が無く、ラジオからの情報には限界があり、市内の被災状況が分からず不安な状態が続いた。

今後の対策のために、改めて16時に全体会議を開催した。その時点で問題になったのは、①厨房でガスを使った調理しかできないこと、②薬局で散剤と錠剤の一包化ができないこと、③病棟でサクションができないことであった。患者食は、ガスを使ったメニューに変更し、洗浄機停止のため、食器はアルコール洗浄やラップを使用した。また、エレベーターが停止していたため、配膳は継続的に人海戦術を行うこととした。分包機が使用できなかったので、外来患者は主にヒートで処方し、それ以外は院外処方に対応し、最低限の外来診療を継続した。サクションが必要な患者は、臨時で小型自家用発電機を設置し切り抜けた。非常用発電機2台をベースに、必要箇所に自家用発電機を設置していくなかで、28日4時に北海道電力の電源車が到着し、7時に院内に十分量の電気供給が可能となり、その時点で非

常用発電機は停止した。

ただし、この時点で問題になったのは、病院に併設している高齢者と障害者施設には、自家用発電機を含めた災害時の備えが全くなく、停電状態が続いていたことであった。そのため、自家用発電機10台程度を、順次各施設に設置し、仮復旧したのは28日19時だった。それまで、高齢者や障害者は、寒さや暗さをポータブルストーブ、LEDランタンやローソク等で凌ぐことになったが、「戦時中の暗さに比べればたいしたことないよ」という言葉に勇気づけられた。

結局、北海道電力の臨時鉄塔建設工事が終了したのは30日で、病院は12時30分、併設施設は12時45分に完全復旧し、通常業務に戻った。

反省会では、各部署からさまざまな意見が聞かれ、早急に防災マニュアルの見直しと全職員への周知が必要であると感じた。具体的には、非常用電源機の通電可能設備（範囲）を再確認し定期検査を怠らないこと、事前に規模に応じた自家用発電機、ポータブルストーブ、LEDランタン、毛布、ラジオ、食料品等を備蓄しておくことである。また、大規模事故発生時には、即時災害対策本部を設置し、院内の連絡体制や指揮命令系統を確立することが、いかに重要であるか身をもって体験した。

ここ数年の国内の異常気象を考えると、今後どんな災害が発生するか予測がつかない。他の地域で発生している災害にも関心をもち、その都度院内の防災体制を再検討することが必要かと思われる。

管理者として、災害時の職員は皆協力的で、被災者がいるにもかかわらず、夜通し高齢者や障害者のケアを優先してくれたことに感謝している。

一番学んだことは、いかに電気が生活を支えていたということであった。

電子メールによる会員への情報提供について

— メールアドレスの登録 —

◇情報広報部◇

本会では、インターネットを利用し、電子メールにより緊急性の高い情報を、会員の皆様に送信提供しております。対象は当会の電子メールアドレス利用者全員と他プロバイダの電子メールアドレスをお持ちになっていて、本会にアドレスを登録している会員です。

他プロバイダの電子メールアドレスの登録につきましては、随時受け付けておりますので、是非ご登録いただきたくご案内いたします。

●電子メールアドレスの登録方法

電子メールで、ご氏名、登録メールアドレスを明記のうえ、下記宛お送りください。

・申込先メールアドレス：add@m.doui.jp